

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600049		
法人名	株式会社ピュアロージュ		
事業所名	グループホーム亀岡陽風荘		
所在地	京都府亀岡市本梅町東加舎九日田9-6		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2691600049-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和2年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭的な雰囲気(空間)作り」 ・落ち着いて過ごせる空間。 ・日常生活作業(タオルたたみ、食器拭き、掃除)などを協力して頂き、生活の役割を持って頂いている。
<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者本位な生活」 ・ケア時は、利用者の意向を伺い対応している。 ・職員は、利用者の目線、思いを汲み取り対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」と基本理念を掲げ、利用者がその人らしい生活を過ごせるように一人ひとりに合った日課や役割を計画に載せて、食事作りや畑づくりを一緒に行うと共に、施設内が開放的で庭に出たり併設事業所との往来が自由に楽しめています。市中心部からは車で30分ほどの地にあり、周辺の多くの方は年齢は高いが足腰が強く、自分たちにとっては縁のない施設だと思われていますが、積極的に地域交流や貢献の方法を模索され、亀岡市の担当課や小学校、保育園、交番所との連携や登下校時の見守り、地域住民との交流に特に力を入れて来られています。昨年度には事業所10周年の盛大な式典でふれあいコンサートを開催され、第2弾として京都府警音楽隊を招へいしてのコンサートを大々的に催されました。地域の人と利用者が一緒に楽しめる陽風荘サロンは健康体操・ゲーム・カラオケで交流するなど、地域との関わりに力を入れた取り組みをされています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と共に・自然と共に・地域とともに」を基本理念としている。又、「その人らしさを支える」を理念に挙げ職員と共有し、実践に繋げている。	開設時からの理念を会議の場で話し合い、利用者同士や職員との関係、自然の中で散歩や栽培活動、地域と共に暮らせることを大切に、その人らしく暮らせるように介護計画でケアの中に取り入れている。職員には会議や失敗した時に理念を通して振り返ってもらい、達成感を味わえるようにしている。理念は玄関や相談室に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、新型コロナウイルス感染の為に交流は行えていない。以前は、公民館の清掃活動、荘周辺の美化活動、近隣小学校の音楽祭鑑賞、交通安全見守りを実施。一部の利用者は、近隣のお店での買い物を行った。	コロナ禍で地域と共には取り組めていないが、毎年、地域の夏まつりや運動会に参加している。また、近隣のお店への買い物やお宮さんにも行っている。また、クリスマス会や七夕の行事は保育園児や小学生を招待したり、小学校の行事への参加や保育園児の散歩コースになっている。通学時の交通整理で馴染みの関係をつくっている。毎月「陽風サロン」カラオケ喫茶を開催し、利用者と共に楽しんで貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流自体は、少ない。 1/2ヶ月の運営推進会議にて、意見交換を実施。 広報を発行を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1/2ヶ月の会議で意見交換を行った意見を全体会議、GH会議にて議題に挙げサービス向上に繋げている。	会議のメンバーは行政の担当課、地域自治会や町内会の役員、地域包括支援センター、家族代表で併設の小規模多機能事業所と合同で開催している。利用者の状況や事故報告、活動報告、今後の予定を報告し、参加者の意見を貰っている。議事録は行政には渡しているが、家族には渡していない。	事業所の運営について運営推進会議で評価・検討していることを、会議の議事録を家族に渡して伝えると共に、参加していない家族からも意見がもらえるような工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に、自治会、民生委員、駐在所、市担当課職員、包括支援センター、管理者、リーダー、ケアマネを出席を行い、事業所内の「実績、ヒヤリハット、事故報告など」を報告している。	管理者は行政主催の事業所連絡会や研修に参加をしたり、常に行政の担当課や消防署、警察署ともお互いに連携し、必要とされる関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、拘束をせず安全にケアを行えるようにしている。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し年4回の身体拘束廃止や虐待の研修を行い受講後はレポートを作成している。(レポートを確認)事業所内はすべて施錠せずに小規模とグループホームは自由に行き来出来ている。利用者に拘束感を持たせず、安全なケアができるように職員の連携と見守りを徹底している。	

京都府 グループホーム亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、安全にケアを行えるようにしている。 日々、利用者の身体観察を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各職員への理解活用までは行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書面等を提示し説明を行っている。 又、家族等が疑問など挙げられた時も、再度説明を行い理解をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のアンケート調査の実施。今年度の目標の1つであった家族会設立及開催(8/27)が実施できた。面会時にも、意見交換を行い日々のサービスに活かせるようにした。	面会時に家族の話や聞きと共により利用者の様子を詳しく伝え、家族とスタッフが密な関係になることを大切にしている。毎月家族に利用者の様子や写真を同封して送り、喜ばれている。8月に家族会を設立したが、コロナ禍のため開催できていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の全体会議にての意見交換。 毎朝申し送りの時間を設け、可能な限り反映している。	朝の申し送りや全体会議、グループホーム会議、日々業務の中で、意見を聞く機会を多く持っている。職員の意見はシャンプーや石鹸を一人ひとりの利用者の希望に合わせて用意することや福祉用具の購入希望が出て反映した結果、安全を確保した支援が出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、勤務実績を管理している。 日々、環境の良い職場を作れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施。 また、自己評価、及び管理者が評価を行い力量を把握を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者との交流は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者とコミュニケーションを取り、不安な事や要望、思いを汲み取り関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時を含め、要望を聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、アセスメントを作成し利用者の情報を把握し提供。場合により他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬心を持ち、共に生活を行っている関係を築けるように努めている。 しかしながら、一方的なケアを行っている事も現状である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、生活状況の報告・相談などを行い共に支え合えるように、協力関係を築いている。 月に一度、荘から生活の様子のお手紙を作成しお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時等に情報収集は行っている。 現状、関り等は行っていない。 今後、提供出来る様に検討していく。	フェイスシートで情報収集して入居まで住んでいた家に行き落ち着いて貰ったこともある。小規模からグループホームに入所された方は、小規模から訊ねに来られている。また、近くの馴染みの店への買い物に行っている。利用者の楽しみごとが絶えないように情報を収集されているが、その情報を使って支援に結びつけられているのかの確認は出来なかった。	入所時のアセスメントや日々の生活の中で把握した利用者の馴染みの人や場を介護計画に立案し支援内容に取り込まれることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション活動（作品作り）を提供し関係性を持って頂いている。また、利用者同士のトラブルを発生させない為、配席の考慮や職員が関りの仲介に予防に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の関係性、支援は行っていない。必要に応じて、出来る範囲で努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを汲み取り、様々な面で情報収集し、思いを尊重し生活して頂ける様に努めている。	入所時のアセスメントで意向を聞きフェイスシートに記入している。生活の中での言動を観察し、ケース記録や申し送りノートに記入し意向の把握に努めている。意思表示が出来ない方は、利用者の表情や目線などで様子を伺い、思いをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントを作成し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活言動を観察し、ケース記録・申し送りノートにて、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が出席しケアカンファレンスを開催している。	初回のサービス担当者会議は今迄の情報や医療情報を基に家族・利用者も参加した会議を行い介護計画を作成している。日々の利用者の様子はケース記録に記入し、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。6か月毎のカンファレンスの前は面会時に家族の意見を聞き往診時の医療情報も加味して再アセスメントを行い、変化の様子は色を変えて記入し、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入し、職員間での情報共有をしている。ケアカンファレンスにも連結し反映を行っている。		

京都府 グループホーム亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望に応じて、理美容やマッサージ等、出来る範囲でその都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に対し、情報提供を行っている。	契約時に月2回の協力医の往診を利用して貰う事の了解を得ている。また、今迄見て貰っていた専門医への受診時は協力医からの情報提供がある。協力医、訪問看護師共に24時間オンコールで緊急時は家族からの「事前意向確認書」で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に情報を伝えた上での電話相談、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を往診医師より医療機関へ送ってもらい、退院時には病院関係者との情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前に説明・確認を取っており、ご本人の状態の変化や家族の意向に沿った内容への再確認も行っている。又、その内容はユニット会議等で話し合われる。	「重度化した場合における対応に関わる指針」をもとに契約時に説明し、家族、利用者の意向確認と共に「事前意向確認書」を書いて貰っている。また、容態変化時に医師の指示のもと再度、意向確認を行っている。職員は研修を受けユニット会議で共有している。一人の方の看取りの実績があるが、家族の見守りと遠方からの家族も全員が揃い別れたことを感謝された経験をした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員が確認出来る様に準備をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立ち会いの元、避難・防災訓練を実施している。 地域との協力体制は築けていない。	年2回消防署の立会いのもと夜間想定避難防災(火事と地震)の訓練を行い、さらに「洪水時の避難確保計画」を策定して消防署と合同の訓練を行っている。台風で停電となり、2日間電気のない生活をしたが、利用者はキャンプみたいと懐かしい経験を思い出されていた。訓練の時は地域には知らせたり協力要請は出来ていないが、運営推進会議でお知らせと報告をしている。	地域周辺は住宅が離れているが、避難訓練をする時に知らせて協力を得られて、訓練の後に備蓄の食材を使ったふるまいや豚汁やおにぎりの炊き出しをするなど、楽しみごととして取り組まれるなどは如何でしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に、プライバシーを配慮したケアを努めた。 否定しない声かけ、不適切な声掛けをしない様に努めた。	利用者の自尊心に気を付け、ケアをする時は必ず声をかけ了解を得てから対応している。利用者の表情を見て、不適切な声掛けや大きい声を出さないようにし利用者に合わせた支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを聴き自己決定をして頂ける様な関わりを持つように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的なケアにならるように、希望を伺い対応を行うようにしました。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者により異なるが出来る範囲で整髪、洗顔などを実施して頂けるように声掛けを行った。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	人間関係を考慮した配席にて食事提供を行いました。また、出来る範囲で食事準備を行って頂きました。(台拭き、食器拭き、軽量の食器運び)	利用者の食べたいものを聞いて献立をつくり三食とも利用者と一緒に調理の準備や片づけをしている。4人の利用者が、切ったり、炒めたり、煮たり、味付けをされている。他の方は洗米、台ふき、食器ふきなど、それぞれ利用者のやりたい気持ちや能力に合わせて行って貰っている。近くの屋台や回転ずしに食べに行ったり、コーヒーを飲みに行っている。暦の上での行事食や誕生日には好みの物を作ったりパンバイキングをして喜んで貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取に記録を行い摂取状況の把握を行った。又、身体能力に応じた形態を検討し提供を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施。自身で行える部分は実施して頂き、仕上げはケアを行い実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を行い、定期的な排泄声かけを行っている。	利用者の自尊心を大切に気持ちよく過ごしてもらうためにもトイレでの排泄を促している。排泄チェック表に記録をし定期的に声掛けをすると共に励ましたり表情やしぐさなどの様子に気を付けている。全員紙パンツとパットで過ごされている。失敗された時はさり気なく取り換えを手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸食（ヨーグルト）の提供、服薬の調整にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本ベースの作成（週2回）の基に意向を伺い対応している。拒否などがみられる時は、日時などを変更し対応している。	週2回、利用者の希望に合わせて入って貰っている。石鹸やシャンプーは好みの物を個々に用意し使っている。安全安心に入れるように、支柱や回転盤など福祉用具をそろえている。また、リフト浴で入っている方もいる。希望者は同性介護で対応し、柚子湯や入浴剤など希望に沿って使っている。全員お風呂が大好きで、長湯の方が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の、体調、気分に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法などを理解し支援を行っている。服薬後は、身体変化が無い確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割、手伝いを行っている。 (テーブル拭き、洗濯たみ等) 行事やその準備、レクリエーションを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲で行っている。(散歩)また、家族さん同伴で外出される事もみられる。 地域との協力は行えていない。 (現在、コロナ感染予防の為、企画自体行っていない。)	事業所周辺に散歩に行き季節の移り変わりを楽しんでいる。また、敷地内の庭に椅子を持ち出し、日向ぼっこを楽しむこともある。コロナ禍までは近くの商店に買い物に行ったり、ドライブでコスモス園やり浜に行っている。4人乗りの軽自動車ですら回数に分かれて行くことが多い。家族とは外出や外食に行かれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の金額を荘に管理し、必要に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的には行えていない。希望に応じて電話の取り繋ぎ対応や、利用者によって携帯電話を使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、清掃、空調管理を行っている。 ホール内は、季節感を感じて頂けるように創作物を飾ったりしている。(利用者で作成)	共用空間は毎日清掃を行い清潔に気を付け、換気を常時行うと共に、室温や湿度は空調で調整をしている。室内には自然の風と共に畑や稲作の匂いも入り込み、居ながらにして四季折々の季節を楽しんでいる。壁には季節に合わせて利用者で作った作品を展示している。オープンキッチンからは食事の匂い、そして、壁に掛けられた時計や大きな手作りカレンダーで生活感が感じられ、家庭的な雰囲気落ち着いて過ごせるようにしている。テーブルから離れたところにソファとテレビを置き、見ないときは職員がテレビを切っている。隣の畳の間では利用者と一緒に洗濯物をたたんでいる。建物はバリアフリー設計になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席・ソファなど本人が選択できるようにしている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ご本人の馴染みのある物、使い慣れた物を持ってきて頂き、居室内で使用して頂いている。	ベッド、空調、カーテン、ロッカー、トイレ、洗面台が設えられ、衣類や不要なものが片付けられるようになっている。使い慣れたものを持って来て貰うように声をかけているが、広く使いたい方が多く、あまり家具は持ってこられていない。壁面に写真や制作物を飾り、居心地よく過ごされている。居室の表札は番地と花の模様を布地で作り、利用者に良く分かるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計(手すりの設置、段差なし)。 時計やカレンダー、トイレなどの案内表示を設置している。		